

いじめアンケート

全児童対象奈良県統一様式によるいじめアンケート 2015年6月

4月からアンケート実施時（6月）までに「いじめられたことがある」と答えた児童は186名いました。そのうち、今もいじめられていると答えた児童は79名で、学級担任は、79名全員からその事情を詳しく聞き取りました。一過性の言い合い、誤解に基づく回答、悪口ではなく注意や助言にあたるもの、家族間の出来事などを省いていき、最終的にいじめであると判断した事案が3件ありました。3件のうち2件はアンケート以前に学校が把握していたもので、アンケートによって認知にいたったものは1件でした。

3件いずれでも、集団で1人に対して本人が嫌がることを言ったり、陰口を言ったりしていました。重大な違法行為（暴行、強要、窃盗、器物損壊等）を含む事案はありませんでした。

いじめと判断した事案では、関係する児童から話を聞き、事実を正確に把握するとともに、いじめにかかわった児童を特定して、その言動が誤りであることを指導しました。指導を受けた児童は反省し、いじめられた児童に謝罪しています。また3件すべて、全教職員で情報を共有しています。うち1件については「いじめ防止基本方針」に基づいていじめ対策委員会を開き、経緯、発見時の対応、その後の指導と児童の様子を確認しています。

指導後は経過観察をしていますが、現在のところ再発はしておらず、3件は解消していると考えています。いじめは人の心の傾向性に起因するもので、教師の指導だけで根絶できるものではありませんが、その兆候をしっかりとらえ、情報共有して教員相互に意識を高めながら、学校全体の力で解消に努めてまいります。

